

人口現象の地域的分析法(2)

— 茨城県を例として —

総理府統計局国勢統計課
調査区第3係長

大 友 篤

2 地域分析用具としての人口地図

(1) 統計地図と地域分析

地域分析を行なう場合、地域別の統計数字を並べただけでは、地域的な相互関連や事象の理解が容易でない。そこで、統計数字を地図として表現し、視覚的に分析すると、地域的事象の理解が容易になり、統計数字のままでは理解しにくい相互関連がきわめて明瞭になることが多い。このような理由で、統計を地図化した統計地図の利用が、地域分析のためには不可欠である。

地図は、一般に大きく、実測図、編集図、主題図に分類できる。実測図は、建設省の国土地理院が作成している5万分の1地形図とか、地方公共団体が都市計画などのために測量して作った都市計画用図などのように、測定方法のいかんによらず、測定の直接の成果として得られる地図である。編集図は、このような実測図を編集して作成される地図で、世界図、国別図、地方図、都道府県図などがその例で、縮尺は、実測図に比べて小さくなる。主題図はある特定の主題について、実測図や編集図を基図として地図的表現を行なつたもので、統計地図はこの主題図の一種である。

したがって、統計地図を作るには、まず、その基図となる実測図または編集図を用意せねばならない。統計地図を作るための基図としては、都道府県別白地図とか市町村別白地図といった行政境界のみが記載された地図が市販されていることがあるから、利用するとよい。この基図の大きさは、あまり大きい(縮尺が大きい)と図を表現するのに多くの労力と時間を要するから、地図的表現をする事象の性質や地図化の目的によつて縮尺を変えていく必要がある。一般に、分析だけのためなら、関係する地域の単位(部分)地域のうちの最小の地域の境界内に図的表現が可能な程度の縮尺でよい。

また、統計地図の基図には、行政境界のみを入れた白地図ばかりでなく、地形図とか交通図あるいは他の主題

図を用いることがある。事象の地域的差違は、自然条件とくに地形上の差違に影響されることが多いので、そのような要図が予想される事象の地図化に際しては、地形図を基図として用いると、事象の理解が容易になることがある。また、経済事象とくに流通関係の分析には、交通図を基図として用いると事象の理解に何らかの手がかりが与えられることが多い。

分析用具として最も有効なのは、人口地図である。人口地図は、人口の地域別統計を統計地図として表現したもので、人口の地域的分布や人口現象の地域的配置を視覚に訴えてとらえるという点で、人口の地域分析には欠くことのできない武器である。

総理府統計局では、昭和25年の国勢調査以来、全国の市町村別の結果を視覚的に明確に把握し、人口の地域的特質や構造をとらえることを目的として、市町村別の人口分布、人口密度、人口増減などを主題とした人口地図を作成し、印刷、刊行している。また、各国でもこうした見地から、センサス結果の地図化が盛んである。

(2) 人口地図の表現法

地域分析にあたり統計地図を作成する際には、部分地域の特徴を予想的に知る場合と、分析した結果を最終的に地図化する場合とでは、表現方法を多少変える必要がある。前者の場合には、地図に表現する数値がなるべく単純であり、表現もあまり複雑でないことが要求されるこれに対して、後者の場合には、地域的な特徴を明瞭に表わすためにある程度加工された数値を用い、かなり集約化された表現方法がとられることが多く、印刷に付されることが多い。

表現方法は、統計の種類によつても異にせねばならないことがあるので、ここでは、主題である人口に限つてとくに人口の統計地図(人口地図)の作成に用いられる一般的な表現方法を述べることにする。また、表現の技法も、印刷図とするか手書きのままとするかによつて多

少異なるが、以下では、両者に共通の方法を述べる。

まず、単なる人口の分布を表わす方法としては、描点法（ドット法）、円積法、球体法などが一般に用いられている。描点法は、普通、絶対分布を表わすために用いられる。すなわち、特定の地域内の人口をその所在の位置にその数だけ点（ドット）をうつて表わすものであるが、現実の問題として狭いスペースに実数をその数だけ記入することは不可能なことが多い。そこで、そのような場合には、1点あたり100人とか1,000人とかいうように人口に比例した数を定め、その数だけその人口の集まりの所在地に相当する箇所に、あるいは、位置が不の場合はその境域内に均等にばらまく方法がとられる。

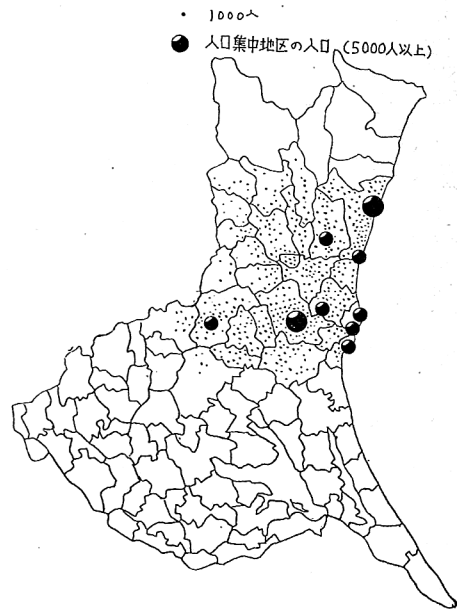
円積法は、その地域の人口を円の直径または半径に比例させて表わすもので、一般的には半径を人口の平方根に比例させて表わすことが多い。この方法は、後で述べるように、人口の分布だけでなく、扇形図（パイ図）として構造的内容を盛り込む場合にも用いられる。

球体法は、人口の大きさを球の半径に比例させて表わすもので、地域間の人口の差がいちじるしく異なる場合に用いられる。とくに市町村別人口などのように、100人台から10万、100万をこえるものまであり、人口の差が極端に異なる場合には、ドット法だと人口の多い地域ではドットが密着して個々の区別がつかなくなるおそれがあり、円積法でも人口の小さい地域に合わせて半径を定めると大都市では円がその境域をはるかにうまわつてしまうことがある。このような場合、よく用いられるのが球体法である。この方法では、球の半径を人口の立方根に比例させて表わすのが普通である。また、印刷の場合などとくに必要であるが、球体の感じを出すために、球体の左上方または右上方に小さい楕円（これは、輝部と呼ばれる。）を描くのが一般的である。（第1図参照）

このほか、人口の絶対分布を表わすものとして、正方形、長方形あるいは立方体、長方体などが用いられることもある。正方形や長方形などの平面形の場合には、一辺を人口の平方根に、立方体などの立方形の場合には、一辺を人口の立方根に比例させて表わすのが普通である。

また、ドット、円、球を単独に用いるほかに、これらを併用することもある。都市人口の分布図のようなものは、この方法によると適当なことが多い。たとえば、総理府統計局刊行の昭和30年国勢調査人口地図のうちの人口分布図は、人口3万以上の市町の人口を球で、3万未満の町村の人口を1点1,000人のドットで表示している。また、刊行予定の昭和35年国勢調査の人口分布図では、市町村内の人口集中地区とそれに準ずる人口1,000人以

第1図 茨城県中央部の人口分布（昭和35年）

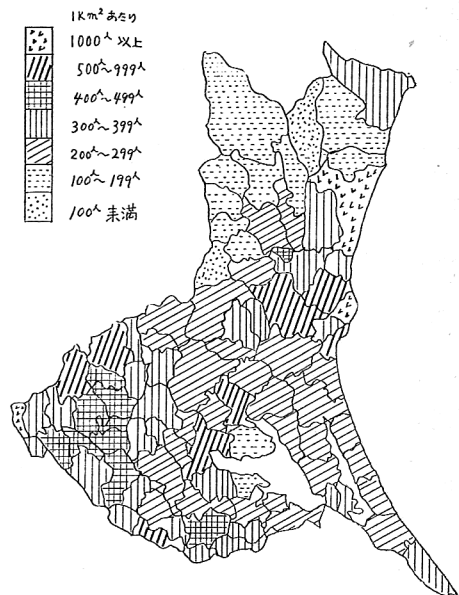


（描点法と球体法による）

上の地域（広い意味の市街地）の人口を球で、それ以外の人口を1点200人のドットで表わすことになっている。

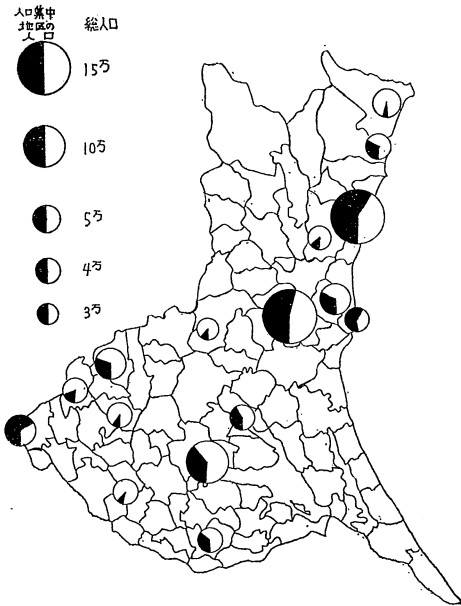
つぎに、人口の相対的分布とか、年齢別割合、産業別割合などの人口の属性の構成比を地図に表現する方法と

第2図 茨城県の市町村別人口密度（昭和35年）



（段彩法による）

第3図 茨城県の都市人口（昭和35年）



（円積法と図式法による）

しては、段彩法、図式法、等値線法などがあげられる。このうち、段彩法は、相対分布や属性別構成比を地図として表現する場合に、最も普通に用いられる方法である。この方法は、表現する属性の数値を特定の数に階級区分して、各部分地域を相当する階級値の高低または大小に応じて色分けまたは単色の濃淡を変えて塗り分けて行くものである。色分けの場合、注意すべきことは色の配列

である。普通用いられる色の配列は、光を分光器で通した時に現われるスペクトルの色の順序、すなわち、赤、橙、黄、黄緑、緑、青、紫の配列であるが、このうちの2〜3色の重ね合わせも用いられる。単色の濃淡で表わす場合には、数値の高い（大きい）ほうを濃く、低い（小さい）ほうを淡くするのが普通である。また、濃淡は、ハツチかアミチンで表わす。（第2図参照）

図式法（ダイアグラム法）は、基図に各部分地域の統計グラフを記入していく方法である。この方法でよく用いられるのは、円積法のところで若干ふれたように、扇形図（パイ図）で、たとえば、各市町村の人口の大きさを円の直径に比例させて表わし、各円を男女別とか、第1次・2次・3次産業別とかの構成比で扇形に配分して表わすものである。このほか、線形グラフとか棒グラフなどを記入することもある。この図式法で注意せねばならないのは、あまり複雑なグラフを用いると、地域相互の関係がわかりにくくなるので、なるべく単純なグラフにとどめるべきである。

等値線法（等高線法）を用いた代表的な例は、建設省の国土地理院で発行している5万分の1地形図である。等値線とは、特定の属性について等しい値をもつ地点を結んだ線のこと、等高線は、土地の高低を表わすために、同じ高さの地点を結んだ線である。人口地図としての等値線図は、一般に人口の地域構成を巨視的に観察したり、人口の分布や人口属性の構成比を各部分地域の境界線をとらずして観察する場合とか、部分地域の一部の資料が欠けているときに欠けた地域の数値を補完、推定して観察する場合などに用いられる。

豆 辞 典 市 場 調 査

複雑な市場の実態を把握し、これに対応して商品の製造、広告、サービス、販売に至る一連の経営計画を合理化しようとするもので最近日本でも相当に行なわれるようになった。調査される内容には、潜在需要、顕在需要ないしそれらの変動状態、消費者嗜好、心理、消費行動、購買意欲、購買行動の様相、供給に関する現在および将来の予側、在庫状況、貿易状況、金融問題、サービスの問題、広告、デザインの問題等に行わたる。これらについて既存資料が使用不可能の際は新たな調査を起すことになるが、それには主として標本調査簿を用いて調査される。

（統計小事典より）

こ れ か ら の 電 話

日本電信電話公社 茨城電気通信部

電電公社は、ミすぐひける電話ミ ミすぐかかる電話ミを目標に長期拡充計画をたて、昭和28年度から、ミ第1次5ヶ年計画ミを昭和33年度から本年度で終了するミ第2次5ヶ年計画ミを実施してきましたが、最近における国民経済のめざましい成長と、生活水準の向上に伴い、電話の需要はますますふえるばかりで、公社の架設数を大幅に上回っており、過去3ヶ年間ににおける……ミつかない電話ミ……の数は、

| 年度別 | 35年度末 | 36年度末 | 37年度末 (見 込) | 記 事 |
|-----|---------|---------|----------------|-----|
| 全 国 | 860,000 | 960,000 | 1,060,000 | |
| 茨 城 | 7,200 | 8,200 | 11,000 | |

と増加する一方で、電話の増設は公社にとつて、一番重要な課題となつています。

こういう状態を一日も早く解消するため、現在実施中の第2次5ヶ年計画に引き続いて昭和38年度から5ヶ年間、資金約1兆8,000億にのぼる、かつてない大規模な第3次5ヶ年計画を実施しようとしています。

その構想は……

▶5ヶ年間に全国で約500万個、茨城では約56,000個の電話をふやす予定です。

これによつて、電話を申し込んでから架設までの期間が相当短縮されるものと考えています。

▶公衆電話は全国で約18万、茨城では約2,500個の増設を予定しています。

以上の加入電話および公衆電話の現在の数や普及率を第3次5ヶ年計画の終了する昭和42年度末と比較して見ると、次表のようになる見込みです。

▶電話局の建設計画

行きつまりの電話局の救済をはかり、市外通話の即時化と産業経済開発に伴う需要に応ずるため、全国で1,520局、茨城では35局の電話局建設を予定しています。

▶市外電話回線を全国で約2,200万軒、茨城では約303,000軒をふやし、10年後には市外通話のほとんどすべてを即時通話にする予定です。

電話の数と普及率(推定)

| 年度別 | | 37年度末 | 42年度末 (第3次5ヶ年計画終了) |
|----------|----|----------------------------|----------------------------|
| 加入 電話 | 全国 | 4,730,000加入 (100人当り4.4) | 9,730,000加入 (100人当り9.8) |
| | 茨城 | 44,000加入 (100人当り2.3) | 100,000加入 (100人当り5.1) |
| 公衆 電話 | 全国 | 170,000個 (1,000人当り1.8) | 350,000個 (1,000人当り3.5) |
| | 茨城 | 2,400個 (1,000人当り1.3) | 4,900個 (1,000人当り2.6) |

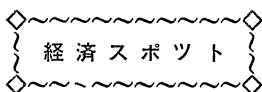
※ 茨城通信部管内の人口(37・10月末)1,933,000

第3次5ヶ年計画については、ほぼ以上のとおりですが、茨城における第3次5ヶ年計画のスタートの年である昭和38年度計画のあらまはし、

- 加入電話は約6,000個、公衆電話は約480個をふやす計画です。
- 新たに自動局として誕生するのは大洗(37年度中)下妻・那珂湊および土浦(荒川沖を合併)の4局となつています。
- 市外電話回線でダイヤル直通実施予定区間は、次のとおりです。

東京—土 浦 水戸—土浦 土浦—石岡
水戸—那珂湊 水戸—下館 下館—下妻
下館—小 山

以上が第3次5ヶ年計画ならびに昭和38年度の計画でありまして、電話が、すでに社会の神経系統として、日常生活に欠くことのできないものとなりつつある今日、電話をより便利にし、また世界の水準に追いつくためにも、今後さらに努力いたしまして、ミ電話はつかないミミ市外通話は待たされるミという、みなさまのおしかりを1日も早くなくさねばなりません。長期間にわたるぼう大な拡充計画も、そのためには、ぜひ成し遂げなければならぬものでありますので、みなさまのご理解と、今後一層のご援助ごべんたつをお願いいたします。



県民分配所得

— 国と群馬県との比較 —

前号では、県内生産所得について、国ならびに群馬県とくらべてみましたが、本号では県民分配所得について解れてみましょう。

その前に、本稿のなかに「一人当り県民(国民)所得」という言葉がよく引用されてまいります。私たちは無感にこの言葉を使用し、あるいは引用しておりますが、この「一人当り県民(国民)所得」というのはどういう性格のものかということを考えてみましょう。

国における国民白書においても、日本の一人当りの所得が外国の先進、中進国から見ると大部低くギリシヤ、スペインなみであるといわれております。

また、本県の一人当り分配所得も他県とくらべてみると大部低く、特に東京都の274,692円にくらべますとその41.0%にもなりません。

したがって、このような数字をそのまま眺めてみますと日本人の生活がギリシヤ、あるいはスペイン人並の生活水準を送つているとか、本県の人々が東京の人達の生活内容の40%にも満たない生活をしているとか思い勝ちであります。ここで考えなければならないことは、その国、あるいは県内産業の国際、あるいは県際の競争力の低さを現わすものではなく、現在のような変動の激しい経済界の荒波の下で、あるいは、自由化という苦難のなかで労働力を能率的に使い合理的に産業の競争力が強化される可能性があることを表現するものであるとさえ言われております。

また、前にも述べたとおり一人当りの県民(国民)所得統計もそれほど県民(国民)生活の内容を表現するものではありません。むしろ、1人当り県民(国民)所得という場合には、公共投資、社会資本の不足ということが大きな影響力をもつわけです。未開発地域、悪い道路深刻な住宅不足等の社会資本の遅れが県民(国民)所得の低さとなつているとさえ考えられるわけです。

したがって、これらの公共投資、あるいは社会資本が充実してまいりますと、経済も活発化し、所得の向上が得られるというわけです。

このような考え方から出発して、各種の総合開発計画が推進され、引いては県民所得の向上、そして安定した県民生活の約束という終焉にまい進しているわけであります。

話しが大部わきみちえそれでしたが、多くの統計の数値をみると、その裏にある小さな声なき声にも耳をすまして理解することが大切でありましょう。

さて、昭和36年県民分配所得についてみてみますと、その総額は2,300億円で、35年の1,900億円にくらべ21.2%の増加であります。これは国の19.3%、群馬県の20.1%をみましても、昭和36年における経済の好況がみられるわけです。

また、これを県民1人当りに換算してみると111,400円で、やつと36年になつて10万円台に突入したわけです。然し、国の145,600円、群馬県の117,000円にくらべてみますと、依然低位にあり1人当り分配国民所得に対して本県の1人当り県民分配所得の占める割合は77%となります。

また、こうした県民分配所得の121.2%という伸長は、過去10年間の最高の増加率であることは注目されますが神奈川県35年の125.4%、36年の126.9%にくらべてみるとまたかなりの開きがあることがわかります。

次に、県民分配所得の構成についてみてみると、最も比率の高いのが従来どおり個人業主所得であり、全体の43.4%を占めております。すなわち、36年のこの所得は994億円、35年は887億円で12.0%の増であります。

以下、勤労所得の42.2%、法人所得の10.2%、個人利子所得の3.0%となり、これを国ならびに群馬県についてみると(別表)のとおりであります。

すなわち、分配国民所得では1位が勤労所得で50.7%
 ついて個人業主所得26.3%,法人所得16.5%になります。
 ところが、本県ならびに群馬県の1位は個人業主所得
 ですが、両県とも勤労所得との差も昭和36年には1%足

らずと大部接近していることは近い将来国(先進国)な
 みの形態が整えられる前兆とみるべきでしょう。

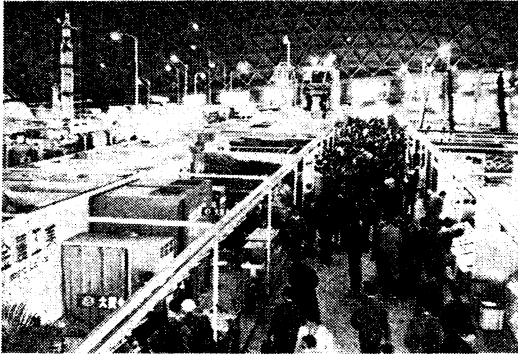
(経済統計係 横須賀弘)

(別表) 分配所得比較表

| 産業別 | 項目 区分 | 35年 | 36年 | 前年対比 | 構成比 | |
|---------|----------|------------|------------|-------|-------|-------|
| | | (A) | (B) | B/A | A | B |
| | | 百万円 | 百万円 | % | % | % |
| 総額 | 国 | 11,474,400 | 13,693,700 | 119.3 | 100.0 | 100.0 |
| | 茨城 | 188,981 | 228,987 | 121.2 | 100.0 | 100.0 |
| | 群馬 | 154,056 | 185,094 | 120.1 | 100.0 | 100.0 |
| 勤労所得 | 国 | 5,776,000 | 6,935,100 | 120.1 | 50.4 | 50.7 |
| | 茨城 | 75,495 | 96,529 | 127.9 | 40.0 | 42.2 |
| | 群馬 | 62,381 | 78,150 | 125.3 | 40.5 | 42.2 |
| 個人業主所得 | 国 | 3,158,900 | 3,605,100 | 114.1 | 27.5 | 26.3 |
| | 茨城 | 88,729 | 99,360 | 112.0 | 47.0 | 43.4 |
| | 群馬 | 70,282 | 79,551 | 113.2 | 45.6 | 43.0 |
| 個人賃借料所得 | 国 | 249,000 | 303,900 | 122.0 | 2.2 | 2.2 |
| | 茨城 | 2,531 | 2,810 | 111.0 | 1.3 | 1.2 |
| | 群馬 | 3,725 | 5,122 | 137.5 | 2.4 | 2.8 |
| 個人利子所得 | 国 | 461,500 | 558,400 | 121.0 | 4.0 | 4.1 |
| | 茨城 | 6,080 | 6,977 | 114.8 | 3.2 | 3.0 |
| | 群馬 | 6,694 | 7,403 | 110.6 | 4.3 | 4.0 |
| 法人所得 | 国 | 1,814,700 | 2,261,000 | 124.6 | 15.8 | 16.5 |
| | 茨城 | 16,103 | 23,264 | 144.5 | 8.5 | 10.2 |
| | 群馬 | 10,866 | 14,743 | 135.7 | 7.1 | 7.9 |
| 公営事業剰余 | 国 | 163,100 | 207,000 | 126.9 | — | — |
| | 茨城 | 43 | 46 | 108.5 | 0 | 0 |
| | 群馬 | 108 | 123 | 114.0 | 0.1 | 0 |

第 5 回

東京国際見本市を見学して



「日本と世界の経済を結ぶかけ橋」第5回東京国際見本市は東京晴海埠頭で4月16日から5月6日まで開かれましたが、その最終日に見学して参りました。

当日はあいにくの雨にたたられ、新宿駅西口から会場行の都バスも満員だった。

会場も最終日とあつて、相当困難していた。会場の正面入口を飾る矢印形の門は、7個の宇宙ロケットになぞらえたもので、こんどの見本市のテーマ色、「青」をタテジマ模様に使つて、いまにも大空へ飛立ちそうな構えだ。

会場の総面積は25万平方メートルという拡大なものであり、展示館も1号～11号館まで、展示点数は身の廻り品から電子計算機、工作機械まで13万点という、まさにマンモス国際見本市である。これを全部見るのには30kmも歩かなければならず、とても1日2日で見ることが出来ない。そこで入場料200円也と引換えにもらつた、会場案内のパンフレットで、この館ははぶく、この館は横目にみて、というように見学上の作戦を立てての1号館から見はじめた。

電気機械器具の小型化

テープレコーダーやテレビなどが、各メーカーで小型のものを競つて発表している。テープレコーダーは弁当箱ぐらいの大きさでどこでも手軽に持ち運びが出来る便利なもの、またマイクロテレビも、小型の割合に画

面がスツキリしていて優秀な精能であるようだ、おそらくここ1・2年のうちにマイクロテレビブームがやつて来て、旅行やハイキングにテレビを持ち歩く人も多くなるのではないだろうか。

ダイヤルのない電話

電話も最近は自動化、即時化が進み、なかなか出ない電話も、まずまずという状態になつたようだ。

さてこのダイヤルなしの電話というのはどういうものかということ加入者が電話機のハンドルを持ち上げると交換機は加入者からの線を音声数字認識装置に接続する。加入者が送話器にむかい、相手の番号をイチ、サン、レイ(130番)といえは、音声数字認識装置が声の意味する数字を自動的に識別し、その数字に対応する符号を交換機に送る。交換機はこの受けた符号のとおり相手呼んでくれ、通話出来るという仕組みになつている。こうなれば非常に能率が上がり、スピーデーに仕事も処理出来るということである。

プレゼントは電子頭脳に

いろいろな楽器の音を出す電子オルガン、老大な集計事務も短時間で処理してくれる電子計算機など、このところ電子機器の発達が目覚しいが、某電気メーカー出品の電子頭脳をご紹介します。

あなたのお友達が結婚されることになりました、さて何をプレゼントしたものかとお悩みになるのはあなたばかりでなく誰れも同じではないでしょうか、そんなときこの電子頭脳に聞いてみれば即座に答えを出してくれる。

つまり、それぞれの条件、予算額、相手の年齢、性別贈る目的、結婚祝とか御中元など、品物の種類、食料品とか家具、電気器具などのボタンを押すことによつてネクタイとかコーヒーセットというように答えてくれるわけである、まったく重宝なものだ。いろいろな悩みごとをなんでも答えてくれるという機械もそのうち現われるのではないだろうか、そうすれば同じことを繰返し考える必要もなくなるだろう。

日本市場ねらう海外メーカーの動き

貿易自由化ということもあつて海外の各メーカーの売込は相当に活発のようだ、人口1億に近いしかも最近素晴らしい経済発展を示しているわが国を、海外メーカーが強い感心をもつのは当然のことでしょう。

本国から資材を選びこんで最大の外国特設館を作つたイタリアは工作機械から女性のクツ下までずらりとそろえ宣伝に余念がない。

イタリアといえばスパゲテーターと明るいイタリア民謡を思い出すが、イタリア館ではスパゲテーターの製造をオートメーション化しているところを実演してみせ、お客様には出来上つたスパゲテーターをビニール袋に入れてサービスするというなかなか商魂たくましいところをみせていた

皮靴の製造機も実演を行なつており多勢の人が熱心に見入つていた、こう簡単に靴が出来たのではいまいに、ネクタイ同様、月、火、水と1日ごとに靴をとりかえてなどという時代も来ないとはいえないだろう。

外国館に展示してある飲料品のビン、レツテルがとても美しい、日本のものにくらべるとデザイン、色彩ともによく、ビンの形もスマートで見ただけで飲みたくなつてしまう。

アメリカは某飲料会社と航空会社が、入場者のうちから抽選でベルリン招待コンテスを計画し、展示品パンフレットもアメリカにおける自動販売時代に至るまでの歴史を詳細に書いてある親切なもの、そしてこのパンフレットには John F. Kennedy 大統領の、署名入りの次のようなあいさつが掲載されている「第5回東京国際見本市米商展示会場へのご来場を歓迎いたします。アメリカでは、個々の市民の希望をかなえ、その生活をいつそう良くするため新しい方法が、絶えず研究されています。ことしの出品は、こうした研究の成果でありまして、消費者が望むものを、必要な時に必要な場所で、安く能率的に供給する自動販売機が中心になっております。米国の展示はまた、アメリカ国民が、表に多い提携関係にある日本の皆さまとともに、現に盛んに行なわれている相互の有益な経済関係をいつそう拡大してゆきたいというアメリカ国民の強い念願を示すものであります。アメリカ国民を代表して日本の皆さまに心からごあいさつ申し上げます」

げます」

パンフレットにも大統領の署名を入れているあたり、いかにもアメリカ的である。

日本でも最近ではスーパーマーケットの進出で流通機構が余々にてわありますが、改善されております。今後ますます良い品を安くということでは流通機構、販売方法などが改められると思われま

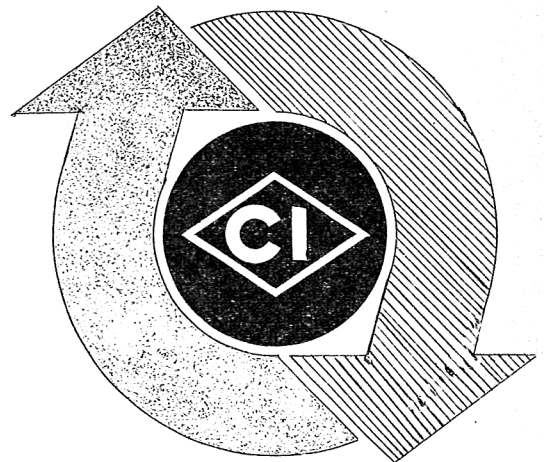
す。オーストラリアは日本人モデルを使つて「カンガルーの毛皮で作つたオーバーなどのショーを開くなど買気をそそるのに余念がない。また西ドイツ館では日本人炭鉱労働者が恵まれた環境のなかで働らいているところを紹介していた。

自由主義国家とは対照的にチェコ、ハンガリーなど共産国は非常に地味であり、先に工業見本市を同じ会場で開いたソ連が参加しなかつたのはさびしい。



む す び

昭和37年の日本の貿易額は輸入1兆8千億円、輸出2兆4千億円と大巾な輸入超過になつている、これから相当輸出に馬力をかけないとバランスをそこない、経済的な危機ということも考えられる、今回の見本市ではその取引額において予想を下廻つたように伝えられておりますが、見本市を開催することによつて貿易の振興を図り国際親善に寄与するところ極めて大であると考えられます。従つて今後ともこのような催が盛んに行なわれることが望まれると思ひます。(N)



市 町 村 の 横 顔

岩 井 町

概 況

この町は県の南西部に位し、東は水海道市に、西及び南は利根川を隔てて千葉県と相対しており、北は猿島町に接している。

昭和30年3月1日に当時の町村合併促進法の趣旨をよく理解した旧岩井町外7ヶ村が合併し、面積91.8km²合併当時の人口35,627人という郡内で最も大きい町として誕生した。

水戸からこの町へは、常磐線で土浦駅へ、土浦から常総バスで谷田部を経由して水海道駅へ、ここで岩井町行のバスに乗りかえる。所要時間はおよそ3時間である。しかし、東京へはバスの便がよく、岩井及び境始発の八重州口行が日に24本も出ており、1時間50分ぐらいで東京へ行けるとのことである。また昭和33年に芽吹大橋が完成したことによつて千葉県野田市へのバスも開始している。この外岩井一境、岩井一古河、岩井一下館、岩井一石下間もバスが通つており、鉄道沿線ではないが交通には恵まれているようです。

最近商店街の改飾が行なわれ、街並も昔にくらべ明るく近代的な感じがした、スーパーマーケットも数軒みられ、ちよつと奥まつたところにはこぎれいなバーなどもある。去る36年には工費4,500万円という鉄筋三階建のデラツクスな庁舎が完成し、玄関前には直径20mもあると思われる噴水が空高く水を吹きあげており役場を訪れる人々の心をいやしてくれている。

今年1月の人口は33,419人で合併当時にくらべ2千人の減少を示し、京葉方面への人口流出が目立っている世帯数は反対に増加しており、これは町営住宅などが次々と完成し、世帯構成が近代化していくためである。

産 業

この町の農家人口率は77%で、昭和35年の国勢調査による第1次産業就業人口は13,792人で76.2%となつており、農業の占めるウエイトは相当に大きい。耕地は4,127haでそのうち畑は62%の2,566ha田は1,486ha樹園地74haとなつている。主要農産物は米麦など穀類であるが、このほかタバコ、野菜などを産し、また猿島地帯は茶どころとしても有名で、この町でも55haの茶園と、10の製茶工場がある。

農業部門の生産性あるいは所得水準の低位であることは今更申し上げるまでもありませんが、この町でも早くからこのことに注目し、農業の健全なる発展を図る一方

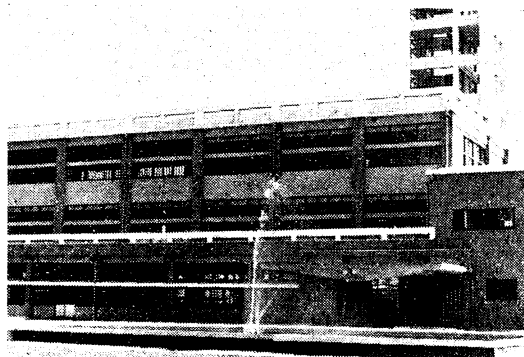
企業誘致を積極的に行なつたため昭和33年には従業員3人以下の事業所56、4人以上10であつたものが、37年には74と32合計106の製造事業所を有するという素晴らしい実績をつくりつつある。そのため就業構造も大きな変化をみせ、昭和30年には第2次産業就業者688人3.8%第3次のそれは2,541人13.8%であつたものが35年にはそれぞれ1,178人6.5%3,121人17.3%となつた。今後町としては企業誘致を更に進めるとともに農業経営の合理化を図り高度農業とするため各種の施策を行なうとのことである。

教 育 文 化

この町にかつて平将門が居を定めたことが歴史上明らかとされており、例えば将門が愛飲したといわれる石井の井戸、将門の調練場であつたと伝えられる富士見の馬場など数々の遺跡が多く残され史跡を研究する人達にとつては特に興味ある町であろう。町でも最近郷土誌研究会の人達を中心となつて岩井町郷土誌を発刊している。これは他町村にあまり例をみないことで非常に意義深いことである。

文部省委嘱の婦人学級が8学級、中央には幹部養成を目的とする1学級が置かれ、家事を受持つ忙しいお母さん達も、学校では史跡の研究や茶道、子供のしつけなどを熱心に勉強しており、ときには詩吟に楽しい1時を過ごすなど、地域社会における婦人の位置を高めようと努力している。

長らくご愛読いただきました「市町村の横顔」も本稿をもつて全市町村終了いたしました。取材に際しご協力を下さいました市町村当局に対し心からお礼申し上げます。
(編集部)



(岩井町役場)



人間雑話 (12)

茨城大学教授 塚本勝義

これは三浦朱門の最近作〔借老同穴〕が指摘した人間の問題である。いつたい三浦という作家は細君の曾野綾子さんに劣らぬ秀才らしい。小説の組み立てが緻密だ。整っているためにしじみとした味がない。小説だつて人間と同じで、手すみがはいり過ぎると事務的に流れてコクがなくなる。ところが〔借老同穴〕は、彼の作としては組み立てのまずい作。それだけに親近感が持てる。そして、捉えた問題もいい。

和泉正利は友人伊藤喜一郎と共同でデザイン工房を経営している。始めてから、もう十年になる。スタートした当時は芸術的な仕事をしたい情熱があつて、かなり良心的な張り込み方をした。しかし近頃は仕事に慣れたために、見通しがきく。見通しのきくのは安全率を高めるものの、始める前から結果がわかっているのだから、てんで情熱がわかぬ。ただ、やることをやつて行くだけになる。伊藤や助手格の女の子の性格や気心も大体わかっているので、不安も感じられない代りに、あてになる限度も明らかだから、工房のドアを押すときにも、間違つても胸騒ぎなんかしない。こんなことではどうにもならぬ。伊藤と手を切つて、個人で独創的な仕事に打ち込むのかなど考えるときもある。が、その仕事の若返策に水をさすものはいつても金である。この金の問題が頭にくらつくと、まあいい、やつて行けるところまで、やつて行くさ——という投げやりな考えに落ちてしまう。

これが、仕事の面に現われる倦怠期だ。十年もサラリーを貰いつづけると、大てい人間はこれにひつかかる。あわてるなよ、みんなきまりきつた仕事さ、きまつたようにかつこうつければいいんだ。じたばたしたつて、どうなるもんか——と、悟つたような考え方をくりかえす。悟つたのではない。倦怠期にはまり込んだのだ。俺の課か、みんなドングリスさ。感心するほど鈍物が揃つてるね——と来る。これだつて、かく評する御本尊様の格が上がつたわけでない。やはり倦怠期の沼にころげ落ちて泥まみれになつたみじめな男のみじめなたわごとにして過ぎない。倦怠期の兆候は、デザイン工房だつて会社だつて役所だつて変わらない。

ところで和泉正利の倦怠期は二重になつて押し寄せてくるんだ。細君尚子との間にもこれが来ている。僕は忙し過ぎて、いわゆる倦怠期を知らずに過ぎた、と言つて

いるが、それは彼の錯覚で、実は目下、倦怠期のまっただ中にうろうろしている。

尚子との結婚生活は八年目にはいつた。男女二児があり、男児の方は幼稚園に出ている。よそ目には、どうやら安定に近づいた夫婦の様に見える。ここまで来ては、もう大丈夫——なんて親たちも安心しているかも知れない。ところが事實は、てんでちがう。へたばつたマラソン選手が、情性で走りつづけているようなもの。胸おどる理想も憧れも消え失せた。お互に、夫の男性も、妻の女性も感じられない。夫は夫という道具、妻は妻というレツテルの道具に化した。食つて、出かけて、働いて、帰つて、食つて、寝る——これが和泉の一日。食つて、子供の世話をし、そこらを片付け、結論のないおしやべりをし、またそこらをいじくつて、食つて、寝る——これが尚子の一日。二人を緊密に結びつける好奇心も魅力も、てんで失われている。

それなら別れたら——とも思えないほど二人はだれ切つている。亀井勝一郎さんは〔夫婦論〕の中で、永久に直らぬハシカにかかつてるのが夫婦じやないかと言つてるが、病気で熱でも出ていない限り我慢できそうにない仲となつて。それでいて、何とか同じ穴におさまる所まで持つて行けるのだから夫婦なんて、まことに不思議な人間関連だともいえる。

こんなわけで、仕事の倦怠期も夫婦の倦怠期も、よく似ている。積極性消滅は全く同じだ。若い人たちが、だらしのない先輩よ、と歎くのも無理もない。若い人たちだつて、十年の歳月を重ねるなら、文句なしに通過する駅なんだけれども。

しかしながら、仕事の倦怠期は、大決心をして表長を呈上し、保険外交に早変わりも可能だが、夫婦の方は、それほど簡単にまいらぬ。和泉もひどい目に逢つた。

彼は或るバカな女にふざけた。その女が家の方に手紙を送つたので、尚子がいきり立ち、だれ切つていた夫婦間に悲劇的緊張が起つた。尚子は、正利という夫には、いささかの魅力も感じられないが、さりとして、捨て去つていい代物ではない。くだらん女に横取りされては黙つておられぬ。仕事の倦怠期は、やめればさつぱりする。が、夫婦のそれは必ず悲劇的緊張をもたらす。やつぱり仕事よりも夫婦の方が難しいらしい。